

説教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2017年12月31日（日）

主 題：「すべてのことに感謝しなさい」

－主の御手のなかで－

テキスト：1テサロニケ5：18

はじめに

- ・今年最後の聖日礼拝を、愛する皆様とともに持つことが許され感謝します。
2017年という年は、皆様にとってどんな年であったでしょうか。

- ・最近、「四文字熟語」というものが流行っています。しかしクリスマス前、北浜のあるレストラン店頭で「五文字熟語」が目に入りました。

それは次のようでした。

- ・早 く も 年 末
- ・自 分 に 追 込
- ・全 て は 来 年
- ・輝 く 自 分 へ
- ・用 意 は OK ？

- ・ところが、クリスマスが過ぎると次のように変わっていました。

- ・今 年 も 一 年
- ・楽 し い 日 々
- ・皆 様 の お 陰
- ・従 業 員 一 同
- ・皆 様 に 感 謝

客を迎える接待業のビジネス姿勢を覗く気がした。キーワードは感謝です。感謝の心を持つこそ関係を作るからです。

- ・皆さん。5文字で五行 ⇒ つまり計25文字となります

1年を閉じるにあたり、短く1年をまとめた「五文字熟語」ではないかと思いました。

皆さんにとって、2017年はどんな年であったでしょうか。

私たちクリスチャンは、どのような「五文字熟語」を作るでしょうか。

- ・今 年 も 一 年
- ・楽 し い 日 々
- ・神 様 の お 陰
- ・聖 徒 ら 一 同
- ・神 様 に 感 謝

- ・皆さん！今年の残り時間は約半日であります。そして明日から、来年です。ユダヤの賢者は、常に歴史の事実（過去の出来事）から教訓を学びました。私たちにとって、時間は再び戻りません。過去の出来事は大変貴重な教訓です。

その財産ともいふべき教訓を生かさなければ、実にもったいないことです。

- ・今年、北浜チャーチに与えられた年間聖句は、イザヤ書40章8節です。

「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

神のみことばの真実、神のみことばの権威、神のみことばと共に生きる幸い等を、神のみことばを通して学んできました。

- ・そこで今日はこの1年を振り返り、主の前にどのような1年であったかを考えたいと願います。今年最後の礼拝説教のみことばは、第一テサロニケ人への手紙からです。

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」5:18

私たちはこの聖句から、今年をどのように整理するでしょうか。3点

大切なポイント

1. 主に正直に申し上げる信仰

- ・「すべての事について、感謝しなさい。」とは、主に正直に申し上げる信仰です。主はすべてをご存じですから、私たちは正直に申し上げる関係があるか否かが問われます。

{例 話} 「自分を見つめる」 John Maxwell 牧師

- ・ John Maxwell 師は牧師でした。ある時、彼がオフィスに入っていくと机上に、メモが置いてありました。そこには「John Maxwell 牧師。お早うございます。自分がどういう人間であるか、次の『二つによって分かります。』」、とありました。

① 自分が誰であることを認識すること (自己認識)

② 自分は誰と関わりを持っているか (交流)

- ・ John Maxwell 牧師は、そのメモ内容を考えているうちに、自分を正直に見つめるという思いになりました。自分が、いったいどんな人なのか。つまり自分を見るには：

1) 先ず自分に正直にならなければなりません。それが自分を見る、大切な鍵であることが分かりました。考えれば、自分に偽りを持つならば、葛藤が始まり苦しくなることは明らかです。

2) John Maxwell 牧師は、更に自分自身もつ「セルフ・イメージ」は、たいてい友人関係で決められているという結論に至りました。自分のこれまでの思考や人格形成、それらは友人から多くの影響を受けてきたことが、分かったと言いました。

- ・ 私たちはこれまで、自分にどれだけ正直に歩んできたでしょうか。どんな友人関係で歩んできたでしょうか。それがこの年の最後に問われることです。
- ・ ところで聖書は、神を学ぶとは、先ず感謝心を持つことから始まると教えています。私たち人間は、感謝できる状態と、感謝ができない状態があります。しかし、聖書は「すべての事について、感謝しなさい」と教えています。では、感謝心が湧いてこない時、どうすれば良いでしょうか・・・?
- ・ 時には涙を流して、主に祈る時もあります。しかし、大切なことは主に正直に語りかける関係を持つことです。神に自分のことを、正直に言える人は幸いです。自分だけで荷を担ぐ必要はありません。イエスの十字架は既に完了しました。イエスの十字架の御死

を無にしてはなりません。今は、主イエスが「くびき」を共にしてくださいませ。 **マタイ福音書**

11:28 **すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**

11:29 **わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。**

11:30 **わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」**

- 主イエスとの関係を持ち、「正直に申し上げる信仰」を持つ人は幸いです。それには、正直に申し上げる関係が大切です。今年、どんな事も、主様に正直に申し上げてきたでしょうか・・・？ 立ち止まり、自分を見つめることです。それは、自分を成長させることになります。
- 今年、私たちは主に正直に申し上げる信仰を持っていたでしょうか。

2. 受け留める信仰

- ここで注意したい点は、「**すべての事について、感謝しなさい**」です。パウロは、私たちに全てのことに対して (for everything)、感謝せよと教えていません。そうではなく、全ての事について(in everything)、「**感謝しなさい**」と教えています。
- 日本語訳聖書は「**すべての事について、感謝しなさい**」です。この「**ついて**」という言葉の翻訳ですが、原語では“in” (何々の中で) である。その点、英語訳やドイツ語訳聖書では、「in」という「何々の中で」、という訳となっています。
- ちなみに英訳では、「**In everything give thanks**」 (各々の状態の中で) です。「**置かれた環境**」⇒ **神が許されて起こる環境**つまり、神の許しの中で起こる現実 (situation) を受け留める信仰です。⇒ ここに、「受け留める信仰」の大切さがあります。皆さん。どうぞ誤解しないでください。それは人間の怠慢、自己管理不足からくる環境を、神のせいにしてしまわないことです。自分に正直であることです。
- 実は、これは大変きびしいものです。なぜなら、私の願いと違うこと、あるいは逆方向ではないかと思えることがあるからです。この道に進めば、又迷いと苦しみの中に突入することになるのでは、と思うこともあるからです・・・。
- では、どんな時に、「受け留める信仰」が働くのでしょうか。私は、逃げ場の無い環境に置かれた時ではないかと思います。しかし、その状況下でも神はいてくださり、ご計画を持っておられます。そこでイエスとの出会いがあり、イエスとの関係をもつ場が生まれます。また、信仰が求められる瞬間でもあります。

{例 話} **ゴルダ・メリア首相**

- **ゴルダ・メリア (Golda Meir, 1898-1978)** は、**イスラエル第五代目首相**でした。彼女はウクライナ生まれで、アメリカで勉強した後、世界的な女性指導者となりました。**30歳**から政治外交活動を始め、イスラエルの労働長官、外務長官を務めて後、**イスラエル首相を5年間務めました。**

- ・首相の働きをしている間、彼女は白血病ときびしい戦いをしました。しかし病気と闘いながら、神への信仰によって仕事をしました。ゴルダ・メリア首相がこの世を去った後、出版された本には次のように書かれていました。

「私は自分の顔が美しくないことを感謝しています。私はないので祈り、美人ではないので一生懸命勉強しまし

- ・また、このように続けています。

「私の弱さは、この国にとっては助けとなりました。絶望は神の導きを知る機会となりました。」ゴルダ・メリア首相は、自分の短所のために悩むことはありませんでした。かえってそのことを受け留め、素直に長見る心を持っていました。



は美人でした。」

- ・皆さん。パウロとシラスは、どうして投獄という事態を受け留めることができたでしょうか？

⇒ 彼らは、逃げ場の無い状況下で神への全き信頼が働いたから

- ・受け留めるという行為は、結果でした。大切なのは、彼らがそこに至るまでのプロセスです。突然、このようになったのではありません。それは彼らに「信仰の備え」（受け留める信仰）があったからです。イエスをキリスト（メシヤ）と明確に信じ、心からの信頼を寄せていました。どんな状態下に置かれても、私の神は共にいてくださるという信仰がありました。それが逃げ場の無い状況下で、生きて働く信仰となったのです。
- ・その「受け留める信仰」は、どのようにして得ることができるのでしょうか？
⇒ 「日々のディボーション」が鍵です。主と日々交わり、主の慰め、力、喜びなどを知らなければ、どうして苦しみに対処できるのでしょうか。
- ・いかがでしょうか。2017年、私たちはどれほど「受け留める信仰」を持つ者でしたでしょうか。自問自答しようではありませんか。

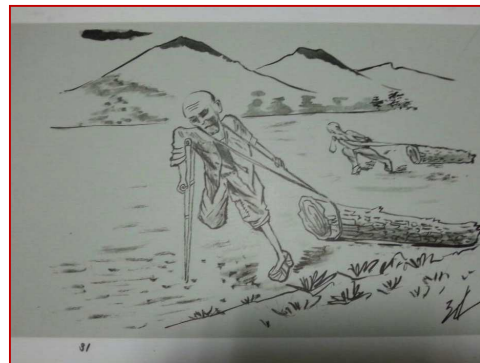
3. 主の臨在を信じる信仰

- ・「すべての事について、感謝しなさい」とは、過去・現在・未来すべてにおいて感謝することです。なぜなら、主は時間の内に臨在されるお方であるからです。時間、つまり神は歴史の内に臨在されるお方です。私の今年の歩みの中にも、臨在されたお方です。皆さん！私たちは、主のご臨在をどれほど経験したのでしょうか？
- ・過去 ⇒ この1年間、神をどれほど知ったのでしょうか
- ・現在 ⇒ インマヌエルの神への信頼があるのでしょうか
- ・未来 ⇒ 未来の私は、現在の私の上に立ちます。つまり未来は、現在（今）という私の信仰が問われます。
- ・皆さん。感謝の心（思い、意思）は笑顔を生み出します。一度、鏡の前に立ってみましょう。心の中にある思いが、その時の顔を作り出すことが分かります。人は個人差あっても、置かれた環境と状態で、一喜一憂することがあります。しかし、神の「お心」は常に神に感謝することです。感謝できない時であっても、みことばの薦めに従順であることは、神の祝福を学ぶ王道です。

- 今年を振り返り、私たちはどんな事態でも神に感謝する心を持ったでしょうか。なぜなら、そこに「神のみこころ」があり、主のご計画があったからです。鍵は、み言葉にどれだけ従順であったか否かです。
- 使徒の働き 16章 19－34を開いてください。
伝道者パウロとシラスは、キリストの福音を語ったため捕らえられました。二人は着物をはいでムチ打たれ、そして投獄されました。彼らは奥の牢に入れられ、看守が厳重に番をしました。二人には足かせが掛けられ、逃げられない状態でした。ところが、彼らは苦しみの獄中で祈りをささげていました。神をほめたたえ、賛美していました。他の囚人は彼らの賛美に聞き入っていました。
- その時、突然に大地震が起きました。牢獄の土台が揺れ動き、全部の扉は開き、鎖が解けてしまいました。大異変が起こったのです。看守は、囚人たちが逃げてしまったものと思い、自殺しようとしてしました(看守がこのような形で責任を取るのは、当時一般的であった)。
- その時、パウロとシラスは大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる。」(使徒16:28)、と叫びました。そして有名な言葉、二人は「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」(使徒16:31)と言いました。彼らの言葉と行動は、看守や他の囚人に良い証しとなりました。

{例 話} 北朝鮮の実態

- 私は先日、北朝鮮から脱北した聖徒(クリスチャン)たちの証を聞き、大きなチャレンジを受けました。その脱北者が強制収容所内にいた時の様子を、スケッチし、見せてくれました。これは本人が体験し、それを描いた非常に貴重なスケッチです。



(詳細は月刊誌「宣教の声」を参照ください)

(障害者も同じように強制労働を)

- 非人道的な扱いを受けている聖徒たちは、そこで神への信仰を捨てることはありませんでした。いいえ、むしろ①避けることができない状態で、②受け留める信仰を学んだと言います。しかし、そこは③主のご臨在がある所でした。主の聖徒たちは、主の不思議を経験した場でした。私はその生き証人と会い、証を聞きました。
- 主がご臨在くださるからこそ、主のわざを仰ぐことができます。主は生きて働かれるお方です。神はご自身の栄光を現したいと願っているお方です。では、どうすればよいでしょうか。
⇒ 十字架の上で古い肉がキリストともに死ぬことです
- 私たちは2017年、どんな信仰をもって歩んできたでしょうか……。振り返ってみようではありませんか。キーワードは主への感謝の心にあります。そして、今日与えられたみことばを覚え、主のみ前に出ようではありません

せんか。

ま と め

主 題：「すべてのことに感謝しなさい」

－主の御手のなかで－

「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」1テサロニケ5:18

・2017年、私たちは主から何を学んだでしょうか・・・？

- ① 正直に申し上げる信仰
- ② 受け留める信仰
- ③ 主の臨在を信じる信仰

***God bless you!**